

特別展「日本の色 吉岡幸雄の仕事と蒐集」

会期2021年1月5日(火)～4月11日(日)

【前期:1月5日(火)～2月21日(日) 後期:2月23日(火・祝)～4月11日(日)】

1)本リストは展示順と必ずしも一致しません。2)作品の状態により、予告なく展示作品が変更になる場合があります。ご了承ください。3)※は展示替・頁替え予定作品

第1展示室

祈りと荘厳の色彩					
薬師寺の修二会「花会式」 幡/桜・梅 造り花					
薬師寺の伎楽装束					
治道	じどう	太宗皇帝	たいそうこうてい	古舞楽	こぶがく
古舞楽	こぶがく	三蔵法師	さんぞうほうし		
東大寺の修二会「お水取り」 椿 造り花/二曲白屏風					
東大寺 大仏開眼会と正倉院宝物					
紫地鳳凰文錦	むらさきぢほうおうもんにしき	紫地入子菱平地浮文綾紫衣	むらさきぢいりこびしひらぢうきもんあやしえ		
遠山文七条袈裟	とやまもんしちじょうけさ				
東大寺の伎楽装束					
婆羅門	ばらもん	呉公	ごこう	呉女	ごじょ
迦楼羅	かるら	縹地花樹双鳥文夾纈幡	はなだぢかじゆそうぢようもんきょうけちばん	醉胡王	すいこおう
楽隊	がくたい	五色の縷	ごしきのる	開眼の筆	かいげんのふで
法隆寺伝来裂					
四騎獅子狩文錦/幡	しきしかりもんにしき/ばん	※国宝 四騎獅子狩文錦(法隆寺蔵)の復元			

第2展示室

王朝文学の色		
襲(かさね)の色目 ※		
かさね色屏風 八面の内	赤系・紫系・青系・緑系・黄系・茶系	
源氏物語の衣裳		
桐のかさね	花の紫(紫根)・葉の緑(蓼藍×黄檗)	
藤のかさね	花(紫根と白平絹)・葉の緑(蓼藍×黄檗)	
桜のかさね	直衣 花の丸紋生絹・【紅花】/下襲 葡萄染(したがさね えびぞめ)【紫根×茜】/指貫 香色【丁子】	
蘇芳(すおう)のかさね ※	単【白絹】/袷 七宝紋紗【蘇芳(すおう)】	
桜のかさね ※	袷(うちき)【紅花】/細長【生絹(すずし)】	
衣配り(きぬくばり)		
空蟬	うつせみ	青鈍(にび)【蓼藍(たであい)×檜樹(びんろうじゅ)】/聴(ゆる)し色 / 【紅花】・梔子(くちなし)【梔子×茜】
明石の姫君	あかしのひめぎみ	桜の細長【生絹(すずし)・蘇芳(すおう)】/ 緋練(かいいり)【紅花】
明石の上	あかしのうえ	白き袷【紋綸子】/ 濃き【紫根(しこん)】
紫の上	むらさきのうえ	葡萄染(えびぞめ)【紫根】の小袷(こうちき)に今様色【紅花】
末摘花	すえつむはな	柳の織物【蓼藍×刈安】
玉鬘	たまかざら	赤き袷【茜】/山吹の花の細長【支子(くちなし)×茜】
花散里	はなちるのさと	浅縹の海賦(かいふ)の織物【蓼藍】/ 濃き緋練(かいいり)【紅花】
滞標(みおつくし) 平安朝官位の色九種一覧	一位の色 深紫 (こきむらさき)	染料:紫根 (しこん)
	二位の色 浅紫 (あさむらさき)	染料:紫根 (しこん)
	三位の色 浅紫 (あさむらさき)	染料:紫根 (しこん)
	四位の色 深緋 (こきあけ)	染料:茜 (あかね)
	五位の色 浅緋 (あさあけ)	染料:茜 (あかね)
	六位の色 深緑 (こきみどり)	染料:紫根×刈安 (しこん×かりやす)
	七位の色 浅緑 (あさみどり)	染料:蓼藍×刈安 (たであい×かりやす)
	八位の色 深縹 (こきはなだ)	染料:蓼藍 (たであい)
	九位の色 浅縹 (あさはなだ)	染料:蓼藍生葉 (たであいなまは)

神に捧げる 季節の彩り					
石清水八幡宮 供花神饌					
水仙	すいせん	松	まつ	椿	つばき
牡丹	ぼたん	南天	なんてん	橘	たちばな
菊	きく	桜	さくら	梅	うめ
杜若	かきつばた	竹	たけ	紅葉	もみじ
五節句					
人日(じんじつ)	【七草の節句】	紅白梅、餅花(もちばな)、曙染布、春の七種			
上巳(じょうし)※	【桃の節句】	布額、花雛、合せ貝、糸巻			
端午(たんご)	【菖蒲の節句】	杜若、薬玉(くすだま)、藍光屏風			
七夕(たなばた)	【笹の節句】	蘭玉、生糸 みすや針、糸巻棚、六色染布、梶の葉、総糸(かせいと)、糸巻			
重陽(ちょうよう)	【菊の節句】	菊、被綿(きせわた)、茱萸袋(ぐみふくろ)、屏風			

古香庵展示室

染料 ※	紅花	べにばな	支子(梔子)	くちなし
	蓼藍	たであい	黄檗	きはだ
	『日本の色』辞典色標本屏風※		茶系、黄系、緑系、青系、紫系、赤系	
	矢車 ※	やしや	紫草(紫根)	むらさきそう(しこん)
日本茜※	にほんあかね	刈安	かりやす	
胡桃※	くるみ			
吉岡幸雄と 紫紅社	『伝統の染和紙』		吉岡常雄著	1977年 紫紅社
	『天然染料の研究 理論と実験染色法』		吉岡常雄著	1974年 光村推古書院
	『小紋手鑑』 ※		吉岡常雄著	1973年 紫紅社
	『縞帳』 ※		吉岡常雄著	1974年 紫紅社

第3展示室

古裂の美—いにしえをたずねて

正倉院裂 ※	7—8世紀		
赤輪違文縹縹薄絹	あかわちがいもんこうけちうすぎぬ	赤絶	あかあしぎぬ
黄亀甲文綾	ききっこうもんあや	赤菱文羅	あかひしもんら
茶蝶花文摺絵絶	ちやちやうかもんすりえあしぎぬ	黄花文夾縹絶	きかもんきやうけちあしぎぬ
緑小菱文綾	みどりこびしもんあや	経錦	たてにしき
薄茶摺絵麻	うすちやすりえあさ	赤七曜文縹縹絶	あかしちやうもんこうけちあしぎぬ
「延喜式」	えんぎしき/50巻のうち/巻14原本 延喜5(905)年~/写本 19世紀		
「古代印度更紗裂」※	こだいいんどさらさきれ/赤星家旧蔵/99枚のうち/木綿/17~18世紀 「手」「更紗」は江戸時代からの呼称。「文」は、特に江戸時代からの呼称がないため、今回付けた呼称。		
いちご手	銀杏(いちよう)手	銭手(和更紗)	縹更紗
笹蔓手	銭菱(げにひし)手	紋尽手	獅子手
ご丸文	ガク手	蓮池に鳥魚文	撫子襷(なでこたすき)文
獅子手	笹蔓手		
かさね色目帖	かさねいろめちやう/各種/19世紀		
竹と鞠挟みに楓文様小袖裂	たけとまりばさみにかえでもんようこそできれ/練貫地 絞り・刺繍・摺箔/16世紀		
獅子に唐花文様裂	ししにからはなもんようきれ/輪子地 絞り・刺繍/17世紀		
菱に桐竹文様下襲裂	ひしにきりたけもんようしたがさねきれ/綾地 絞り・刺繍/17世紀		
網代に桜花文様小袖裂	あじろにおうかもんようこそでこれ/輪子地 絞り・刺繍/17世紀		
古裂帖	こぎれちやう/旧野村コレクション/1帖/17~19世紀		
風景文様茶屋染帷子裂	ふうけいもんようちややぞめかたびらきれ/麻/19世紀		
熨斗目	のしめ/裂3枚・小袖2領/19世紀		
「革手鑑」	「かわてかがみ」/津軽藩伝来/2帖/19世紀		
『玄圃瑤華』	『げんぽうか』/伊藤若冲画/1帖/紙本拓版/18世紀		
唐花文様金雲母更紗敷物	からはなもんようきんきらさらさきもの/インド/木綿/18世紀		
唐花文様金雲母更紗裂	からはなもんようきんきらさらさきれ/インド/木綿/18世紀		
芭蕉布	ばしやうふ/板締め/藍・刈安		

細見美術館

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

[Http://www.emuseum.or.jp](http://www.emuseum.or.jp)